

浚渫土砂を有効利用した干潟造成で 自然干潟に近い生態系を回復

おの みち い と ざ き

file07

尾道系崎港

対象施設 百島地区等干潟

供用 百島地区昭和62年、海老地区平成元年、灘地区平成8年

尾道系崎港松永港区から発生する浚渫土砂を有効利用することにより、昭和59年度から百島地区で36ha、海老地区で16ha、灘地区で4haの干潟造成を実施。

その結果、底生生物の種類数、貴重種の種類数で自然干潟に近い数が確認される。また、アマモ場は百島地区においては、干潟造成の約5倍の面積に増加していることが確認された。



●位置図



●海老地区アサリ漁の様子



●生物生息状況（モニタリング調査）

底生生物

	メガロベントス	マクロベントス	全体
百島地区	74種	(54種)	116種
海老地区	80種	(59種)	118種
自然干潟(福田地区)	96種	(93種)	165種

重複カウントしているため全体数がメガロとマクロの合計になっていない。

貴重種

	自然干潟	整備した干潟
百島地区	19種	10種
海老地区	19種	17種

(ex.) チクゼンハゼ、タビラクチ(魚類) マゴコロガイ、ムツハアリケガニ、スナガニ、ハクセンオシマキ

アマモ場

	造成前	現況
百島地区	約1.3ha	約6.7ha
海老地区	約1.3ha	約1.4ha

●アマモ場



●コウイカ類の卵が付着している様子

